

2025年度 東京福祉大学 特別選抜6期・編入学6期

(出願期間 2025年2月17日～2月26日)

小論文課題 課題文

※無断転載・複製を禁ず

次の文章を読んで、内容を要約した上で、あなたの考えを 600 字から 800 字で述べなさい。

※作成にあたっては、本学所定の「小論文課題 解答用紙」を使用すること。

子供とネット 投稿の怖さと責任どう教える

インターネットを使った他者への誹謗中傷^{ひぼう}が、子供たちの間でも深刻さを増している。軽い気持ちでの投稿が重大な結果を招くこともあると、繰り返し伝えねばならない。

東京・池袋の乗用車暴走事故で妻子を亡くした松永拓也さんに脅迫メールを送ったとして、警視庁が中学 3 年の 14 歳の女子生徒を東京地検に書類送検した。

女子生徒は、自宅のパソコンから、松永さんが副代表理事を務める「関東交通犯罪遺族の会（あいの会）」に、「辛いなら私^{つら}がかわりに殺してあげようか」などと書いたメールを送ったという。

女子生徒は「悩みがあり、警察に相談に乗ってほしかった」と容疑を認めているという。

大切な妻と娘の命を一瞬にして奪われた松永さんは、「2 人の死を無駄にしたくない」と、交通事故防止を訴えてきた。その松永さんに、心の傷をえぐるような言葉を投げつけたのが、14 歳の少女だったことに驚きを禁じ得ない。

今年 3 月には、兵庫県の中学 3 年の男子生徒が特定の弁護士を名指しし、「殺す」などと脅すメール 9000 通を都内の中学校などに送ったとして、書類送検されている。生徒は「ストレスを解消できた」と話しているという。

たとえ悩みやストレスを抱えていたとしても、その辛さから逃れるために、他者を傷つけていいことにはならない。相手に面と向かって言えない言葉は、ネット上でも使うべきではない。

全国の小中高校を対象にした国の調査では、ネットを使ったいじめの件数が昨年度は 2 万 4000 件を超えた。スマートフォンや SNS の利用が子供にも広がり、大人の知らないところでいじめが陰湿化することも珍しくない。

SNS は手軽にメッセージのやり取りができる反面、使い方によっては相手を傷つける道具にもなる。特に子供は社会経験が少ない分、危うさを十分に理解できていないケースもあろう。

相手を罵倒するような表現は、大人にもみられる。そうした書き込みを子供たちが真似^{まね}ている可能性もあるのではないか。

オーストラリアでは、16 歳未満の SNS 利用を禁じる法案が議会で可決された。いじめなどを防ぎ、子供たちを守るためだという。

日本ではまず、家庭や学校でネットの適切な利用法を教える機会を増やしたい。自分がされて嫌なことは、他人にしてはいけないという、基本的な道徳心を育てていくことが欠かせない。

出典：読売新聞 2024 年 12 月 8 日「社説」